

まだ着れるけど…衣類のリユース・リサイクル

京都府立大学 生命環境学部 准教授 やま かわ 山川 はじめ 肇

家の中の衣類を見直してみると、まだ着れるけど「着られなくなった」服がたまっていることに気づきます。寿命を全うした服をリサイクルに出そうと思いつつ、出せずにいる方も多いのではないのでしょうか。

そこで衣類のリユース、リサイクルの方法について調べてみました。

■古着のリユース・リサイクル先

古着のリユース・リサイクル先をまとめると、図1のようになります。

リユースの方法にもいろいろあり

ますが、ここでは最近増えてきていて、比較的利用しやすい「古着屋」・「リサイクルショップ」（以下、リサイクルショップ）を主に取り上げます。またリサイクルについても少し取り上げます。他の方法はここでは触れませんが、そのうち古着利用全般については本誌p.34に、下取りについては本誌p.72に、またリサイクルの詳細については本誌p.62に関連記事があります。

■リサイクル・ショップを探す

さてリサイクルショップを利用するには、まずはお店を探す必要がありますが、最近、古着を扱うリサイクル・ショップが店舗数を拡大しています。特に「JUMBLE STORE」、「2nd STREET」（「ドキドキ」含む）、「オフハウス」は150～250店舗とかなりある[†]ので、ホームページでお店を探すと近くに見つかる可能性があります。

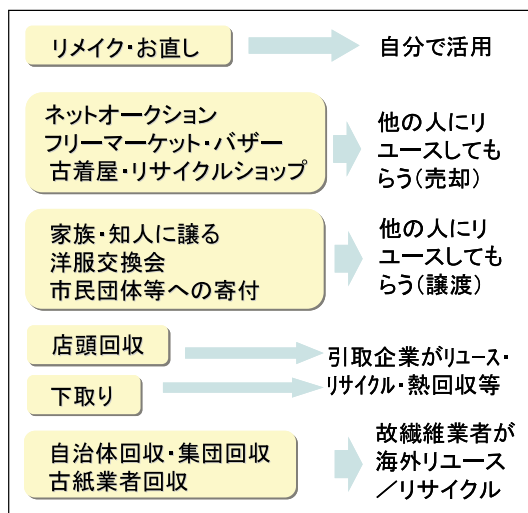


図1 衣類のリユース・リサイクルの概要

† 2010年9月、各社ホームページより推計

その他の古着を扱うお店を探すにはiタウンページ (<http://itp.ne.jp/>) が便利です。iタウンページの「基本検索」のキーワードに「古着」と入れ、探したいエリアを入れて検索すると、タウンページの中から、その地域の「古着」を扱っているお店が表示されます。

ただし古着を扱っていると言っても①販売のみ、②欧米品のみ、③ブランド品のみ、④ボロ回収専門、などいろいろありますので、ホームページや電話などで、自分のニーズにあったお店かどうかを確認することが必要になります。

■リサイクルショップの利用方法

先ほど紹介したチェーン店等では、店頭買取のほかにお店に行かずに売る方法を用意している場合があります。ここでは「JUMBLE STORE」を例に、リサイクルショップの利用方法について紹介します。

店頭買取の場合は単純です。衣類を店頭を持ち込んで買取価格を査



写真1 JUMBLE STOREの買取カウンター

定してもらい、額に納得すれば書類を書いて売却完了です。ただし「JUMBLE STORE」では身分証明書が必要です。

一方、「JUMBLE STORE」には「WEB買取」もあります。指定ブランドに限られますが、ホームページから申し込むと、自宅まで取りに来てくれるというものです。後で査定結果の連絡があり、買取金額を了承すれば指定口座にお金が振り込まれます。査定に不満があれば送料無料です。なお指定ブランドといっても、高額なものばかりではありません。

上記は「JUMBLE STORE」の例

■リサイクル率はたったの2割！

2007年度にリユース・リサイクルに向けて回収された衣類の割合は22%と推計されています¹⁾。古紙、アルミ缶、PETボトルの回収率（それぞれ74.5%、92.7%、69.2%）などと比較して、ずいぶん低い数字です。一方、衣類1kgあたりの製造エネルギーは紙製品や飲料容器などより1桁近く多いと推計されています。着なくなった衣類も、最後まで大切に活かしたいものです。

ですが、それ以外のお店でも基本は同様でしょう。しかし店頭買取でもブランド、季節、使用年数などの限定がある場合もあります。またWEB買取のようなサービスがあるお店は少数です。事前にWEBや電話で条件を確認しておくとう安心です。

■ユニークなリサイクルショップ

ドンドンダウン・オン・ウェンズデイをご存知ですか？ 約40店舗を展開するリサイクルショップですが、このお店は名前のとおり、毎週水曜日に衣類の販売価格がドンドン下がっていきます。そんなユニークな販売方法のこのお店、買取方法もユニークです。ブランド品は他店と同様1点ずつ査定しますが、ノンブランド品の買取は「特に人気のある服」500円/kgから「海外出荷用」10円/kgまで3段階のkg単価による買取です。「10円/kg？ 安い！」と思



写真2 ドンドンダウン・オン・ウェンズデイ下北沢店の店内の様子

われるかもしれませんが、他のリサイクルショップではそのお店で売れないと判断されると買い取ってもらえないことが多いので、衣類を一括で出したいときには便利そうです。

■リサイクルショップで引き取ってもらえない衣類は？

通常、使用済みの下着などは引き取ってもらえません。いよいよリサイクルの出番です。

パタゴニアやゴールドウィン[†]の直営店などでは繊維に直すための回収ボックスがありますし、ユニクロでも店舗で回収し、難民支援等に活用しています²⁾。生産者や小売店によるこうした取り組みがあれば積極的に活用したいところです。

そういうメーカーの商品でなければ、集団回収や自治体資源回収、あるいはリサイクル業者に出すことになります。統計によると64%の自治体では、布類を回収しています（集団回収含む）^{††}。布類の回収がないと思っても、実は持ち込む場所があるかもしれません。分別表などで確認し、なければ自治体に問い合わせしてみましょう。

また古紙回収業者が布類を回収している場合もあります。集団回収の業者などに聞くのもよいでしょう。

† ゴールドウィンは2010年現在、回収ボックスを配置中とのこと

†† 2008年度一般廃棄物処理事業実態調査結果より筆者推定

■衣料品のリサイクル現場の様子

自治体、集団回収等で回収された古布類の多くは、故繊維選別業者に送られ、そこで細かく分けられます。それではいったいどのように分けられ、リサイクルされているのでしょうか？ 故繊維選別業者ナカノ(株)の選別の様子を見てみましょう¹⁾。

集められた衣料品は写真3のように人手で丁寧に選別されます。フェルト・中綿などにリサイクルされる反毛用、主に東南アジア向けの中古衣料用、ウエス（工業用綿雑巾）用の順に抜き取られます。反毛用やウエス用に抜き取られたものは、さらに素材別（反毛用10種類、ウエス用20種類）に分けられます。素材選別作業は一瞬で素材を見分けなければならないので熟練を要する作業です。

中古衣料用のものはさらに約100種類に選別された後、商品としての価値を維持するため、きちんとたたみなおされ（写真4）、梱包されます。

選別の様子やその後の行方を知ると、洗濯して出すことが大切だなと感じますね。

参考文献

- 1) 岩地加世：“衣”との付き合い方—これでいいの？衣類のリサイクル—、廃棄物資源循環学会誌、第21巻、第3号、pp.132-139（2010）
- 2) 所 昌平：新段階の衣料品リサイクル、廃棄物資源循環学会誌、第21巻、第3号、pp.157-168（2010）



写真3 回収衣類の選別作業



写真4 きれいにたたまれた衣料品

■おわりに

リユース用とリサイクル用の手近な出し先、見つかりそうでしょうか？一度手近なところを見つければ、その後はぐっと3Rしやすくなるはずです。この機会にちょっと時間を投資して、身近ないい場所、見つけてみませんか？